石門

心学道話伝

五篇

下

ロ 9
3895
15

門 ロ 9
號 3835
卷 15

早稲田大學圖書館
昭和27.6.16 受
藏 書

心學道話五編卷之下

心學道話

浅尋のつゞれ

酒呑で八碎れる延命息子が有ることゝ

親が大きに苦労と思ひて家日息子へいひきかせる

の酒八あるぐるる癖のある酒じゃ行ゝこ系毒変お様

生涯禁酒いつゝまぜんとくやゝと一ト息子大ぶく迷惑ー

て。ヨクゝ〜ぐあるを程好き酒を生涯呑めとゝつゝやる

ぐそうやあんやうで四年ばかりまア二三年禁

酒ゝゝゝゝ。そゝで場悪しくて下されしゝ所親

又一ト口呑バイヤくそうさの悪性酒中く二年や

三年の禁酒ぐらひで妻子に出来わるくなるでも出産酒は吾身のいとゆく悪敷なるよりいつく頑悪して何う楽どて
ゆうきしくなるやうなて何と思ひ出くるまと実ていひ
まいぢやうさ出産禁酒のうち産後はむつかしきと
えらーーるぐらいさくーもあるきなる酒と出産吾
ぬるもとりくべぐるもるく精ぐ薬さやうでかもいも
ひまれーーそうくまるよ今日が酒とは出産の生産れ
しやうのあきべせあそのの名称小今日一日は出殺しを
さきて下されとやうくに親文もむのるゆしと思ひそうん
るるく今日一日は殺しを吾人べーはの日ようは産後出産

禁酒ぞしやうは附文きる紙へ墨黒み出産禁酒と書附く
やうしくるは悪ようがうてつひまれは出しやうは乗産後
おもう出産酒は吾身ぢまひ。もうーそのうち今月は産
の産ゆく此後く但ーー今日は殺しの日ようと心紀ーくぐ
さきしやうは出くは悪も又むと思ひて書てやうやーさ
しくろは悪ようはそきと見附の柱へ張つうと張附
おれそ月は終日吾やーくぐ又翌日も行くく酒と吾
やうくゆく親文はつくれてひまれは兼て出産禁酒
のるゆ。はる悪く産後やう附アノ張札やでかいてやつくうぜ
アノとうと守りもしぬと産めまくくまバ産月悪よ

ぐいひもんハイヤあのこゝろ成者度ちてもあります
すといふ事ハ親又ましくく賜と立てきまでも其所に
紙でうるくとやこれバイヤ外の法れも今日ハ四月
しゝゆ月きバ今日ハ吾中ます。つゝ一煙酒を明日
ろう生涯でゆ月ろうの事日ものゝ又翌日も今
日ハ四月やろうの事ハのゝ生涯禁酒とやるん
ぐゝとやこゝろゆ月ろうまんが大方親ゝぐゝ死ぬ人
が下度ハ島ゝと同じるで。ゆきも生涯ハ親達と
安心さる。ゆりゝやがマア今日ハ四月やろう
ていハ釈ゝ胆と奥せ。ゆきも生涯ハ人人の事ゝ

大切ゆ。そるつりゝやがマア今日ハ四月やろう
ていまゝと言ゝ。ゆきも生涯ハアノ婦人とする事で
ゆるがマア世ハ四月やろうていハ捷び。ゆれも生涯ゆ
ハその道と学ぶ。ゆりゝやがマア今ハ四月やろう
ていゝゝ。ゆでゝつゝ。生涯ゝゝつて重ん人
が世間ハ多ひとものゝやが。その生涯ハ何時のるぞ
やつゝ。ゆ今ゝゝのゝゆゝやろう。その又ゆ今ゝゝ
生涯で。ゆ今ゝゝ死ゆるゝと今一ツ嬉しゝゆゝ
ゝゝゝ人の此縁ハおもつゝゝ世天の元気
と仮ゆゝやが。それが丁度年寄ゝて結ゝ成るゝゆ

そのどや二十歳で死る人ハ二十年減とかゝるこの二十歳で死る人ハ三十年減と仕るこの五十歳の人ハ又十年減七十歳の人ハ七十年減。浦島太郎ハ八千年減東方朔ハ九千年減と云ふ事なるものでそこゝ年減の減やうハ長いと短いとの違ひあるぞよう御ゝを年減乃かゝるこの世ハ形ばかりの物全方〳〵ハ死もするぞよ此髪毛ぞ中〳〵ふ大分髪毛ぞめ事ハ〳〵アノ髪毛もモウ此方のかゝぐ取復そうとつるのどよしても出来ぬそうぞ。あき種ハモウワるさうぞ此からぐさの不。

ちぐひハうこのどや。それで色も大造ふ古ぬれバ薬式でも。でゝやアるゝゝね中るるものどやぞ。その中に髪毛ぞめ事さとつよて八薬式と仕るう出ぞ抜るゝるよて八薬式とちゝうり乳と仕んざるつて八薬式と仕るゝ後ゝ矣のかゝるこの歳るさのまで薬式とぞるるやアるゝねゝ。それでマア髪毛乃抜ゝ仕ハ極ゝくづもんで出それの先でプウゝる八種の月年で消して。おきまゝ。それでも遂ひも。でるゝて。ぱつ不髪毛乃出霊ゞ出ゝの抜ゝ遂の逆夏ゞ出るのゝつるも中ね

鄭七爵ゝつる中ゝ於ゝゝ者八息ゝ仕る今就

扨のちの時に初てふ此かゝぶと傍機方へとゝれて年賦の筆用ガ減で仕そこふ二天他筆用お減中の目多度ゝし之天道様の御慢西へ墨と引きそこ長形寺一朝て仕て南無かゝらたんのゝヂヤガラン　ドン　あきゞ十番盤ゐゞ中くゝ書ゝや。あの中ゝゝ書てもやつぱり凡夫ゝいふゝのハ仏而ホゝぐつゝう年賦乃筆用ガ減むやうゝゝて素ゝハ挺ゝ何ゝのやうゝ思ゝて居るかゝゝそこて去ハゝふゝの秋ハかゝゝやゝの素年ハじふゝるゝ乃ゝ年ハアするのゝ中ゝ仏ゝ書ゝ成ゝゝんで脱ゝ出ゝる今のゝ中と為ゝる何ゝくおゝゝゝるゝのゝで

乃ゝの長性傳ゝ乃ゝ弄ゝ

ゝゝゝゝ仏ゝゝはあゝゝゝゝ

悟ると云ふことの了よりさきに凝然にうごひすけさえ
ソレ芭蕉と生れソレ茶碗と生れソレ猫と生れ
ソレ天窓と生まれソレ痒と生れ時々刻々生まれどふし
何し目出たい世界じやろうぞさてさてようて大学もも
苟か目で新なう目しまして彩まして又目り形なくなんと
なるが人間く今自分今の境界。墓原微妙の味ひなる
ものと絶知て。我の今々とた大切ふおさんとアイく長
寿とアラうくと勧め寄るこうか。仕事ハあへのじや
それでかの教学の白の文まも生滅い己寂滅為乗と
いふそなれさサア変が滅乃大切るこころじやせうふ

るもなく死といふもなく生滅ともに滅して己ハを
所が滅の寂滅ともいふ寂るなのとも無
事ら縁ハ他ともいふもなく老ともいふもなく病
ともいふもなく悟ともいふもなく事ら縁ハ選ひといふ事
もなく苦ともいふ事もなく事ら縁ハ楽ともいふ事もなく
いふもなく縁ハ楽ともいふもなく苦ともなく
ろうろう変ふるとハふまと風吹ハ波ハ
しと滅の安楽乃ところゆくを亦に出るが人の楽代云と
正法の極楽ともいふものとやとやとやとやじや寂滅ともく
ハ滅多に山賊の天果るもじやとやとやとやとて居る

八丈ときるうりなるちがへじゃ　藏乃家敷　とうへハ　傳でいくを
孔子の御ことべに四也　甚廣乎　屢空の藏ハ空と　如也の
とおれせられさやうるものでハ　大学でいくを　至善といふ和
中庸でいくバ　中和の藏のことといふ所で　藏蓄　毛孔も　我と
つよをのうるへ　私人　欲とでるもきゆとと　病乃ゆ
じゃ。その又　儀礼も　私人　欲のかいとうところと
通くゆへやをいるゆでいつてハ　人と丁度　夜八ッ時分
でうの義も　人べ　藏　藏へさ時の　ゆうるものじゃ　他で
も　藏　藏へ　時　いつものハ　系　藏ゲ　有やう　五やう　森
てあるゆう　就て　居るやう　若いやう　老人やう　張て　居る

やう　孔で　居る　中ノ　貧乏　ろ　ゆう　全　持やう　楽しむ　中ノ　若
しむ　中ノ　さいうさう　ゆう　も　長れて　只クウクウクウくの　軒
でうう　天の　宮　に　ゆて　居る　その　時ハ　測ェ　人ゲ　家　入　居
て　何　行　その　人と　衛つ　こいふて　後と　言ふと　いふこと　も
なゆゲ　そ　かう　何　行　人ゲ　変　やし　ことと　いふて　も　それ　ゆ
しゆき　ハ　英雄　かう　ゆ　と　鼻　と　延　ゆ　ろ　もう　ひ　系　その
このゲ　ごと　不　ど　欲　乃　ゆ　ろ　ハ　の　ゆ　ハ　の　ゲ
ゆ　ろ　ゆ　と　服　の　茶　へ　小判　百　函　投　ゆ　て　見　ハ　ゆ　ろ　見　ゆ　と
つ　て　見　ゆ　も　ゆ　ハ　ゆ　ハ　ゆ　ハ　ゆ　ハ　酒　や　着　の　ゆ　港　見
と　奥　生　ゆ　寒　つ　け　て　ゆ　ゲ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　と

ろ〳〵しもせぬ又女中ろれば猪猪の接筆ドやの玉代繁
猪ドやのどんる猪猪るりの奥あく突付てコレ〳〵おはさん
見ハ〳〵ろれ〳〵ろいろてろ世ても只クウ〳〵クウ〳〵の空〳〵
ドやかろうまいものドやあハのそんる〳〵又一日寿寿
でかの益ともなれりの〳〵切りハイヤ又さ〳〵しさこの
でもかいドや虐けきバかもいと知るこんろて猪ろり痛
事れバ痛いと知るとろくて摩もすると伸ーたり足と
屋やろり緑ろうたろうソレ火事のソレ盛城のろ〳〵
ろれハアッといろもおいの。ろるりと祇て延おしもする
おんと身五さとのドやるハろ人の玉長ろいろ〳〵ろ

ダてうぐてアさろうてよ中ろるろで微茶毛ろ私の
ひ〳〵いよをのぷいろろうの車ドやろ〳〵毛ハ緑
さ時てもぐ緑〳〵いよるがあるだけ又寿毛知乃
ろ〳〵ろれが不自由ろ玉長ろいよ〳〵ろ
ろおてハおしも不自由ふるハるハ。ろハぶんおヒ
けきハ笑ひりかるー毛きバ法り嫌ーわれバ
うれしの形もー憂寿きバ憂以就も仕やうけきど
そのうきしのやろ〳〵ろ所ろ心がろうでハなの
しやそうやアノ形よの時乃るでも考てのろうど
ぬかおろけきバ笑ひろ〳〵かるー毛きハ法もするろ

そのおかーいやいかーいに別ふ心ハあるぺかーぐーふおるく
がやくーして居てもおーぐ紙ハ紙くーもの屋さ時しおる
ーるを人数人人ゝ来くて来てて可笑らーしーまいやよ白
ードやアノ色色の白いるヨーヨの奥箱もしくーをけて
扱もくーおかーしーとげる。おどらめてこのやうふかめてやー
ーて。それアんよおをハかーしーとげーいろうよくと奥を伸ばし
もおいが。そのかーう就のアんてふ思てヨて汚縁ハ
就付ードやアノ人の高いる人ハノ奥ハひーけて眼ハくードーよ
でハ思ハのやう笑ふもあるまんおどいめて紙つてもあ茶
扱と為る事色もるん洗ヨれ孔子孫ハ李路の徳成御

賞おさうん敬ゝる縕絶と衰て孤絡と衰ゝる者し衰く
加ざる者ハ甚由也與しもいせらきて。どの中ゝる補裾ゝる
条ゝる衰扱ヨて。よハ衰書とゝ人の中へ出ても孤ゝ
いしも思ハねものハ代季路であろうと。おいせらきてゝが
維でも幼ゝる供の時ハ代季路と同じるでおきも代拒
な衰裳として。アノ角達の中へハ出らきぬのイヤ持ゝ衰
の思ねのハ結白人ゝ。ゝねとゝやがおきらがやうる
奥之人ゝ思ねと反つて人ゝる廉ゝとるの昭下にんる
のゝつよ中ゝる蒙茸しゝ振性ハちつもいうやせね
何ゝ寂る楽おものゝやるハうそゝゝ織の寂減高楽ー

やそきにつのて爰ゑるうしへくるしの色ハチトいやし
いとおしゝるれど先年日さくしが武儀トの町端でゑる
るでゆきくまんがそのきこ乃多之人のゑとゑくて年も
十五ゑの八月後の男のゑが豆腐屋へ豆腐の澤と買ふ往
とのゝゑくてゆいさる筋へ豆腐の澤とのてそゝく糸
天窓のゑくさゝゆ者奥欲郷ゆて。をゝくゝもりゆさゝ
が。くゝめその母親が。その子と買にやる時。途中で人ゑ
ゑせねやゝゝて買てをゝきゝゝもゝつて。やつゝも
のゝゑくまんゝや色が山ゆ戸あゝとでハるゆでゆきゝ
ませふが四合ゑ終あるゆでゆきゝまん親が多之

でゑ供ハ多し今日と啖ゑゝゆをゝるゝとゆゝ中ゝるゝ下儀か
ゝのハゆ飯の足に世豆腐の雪花菜と和交て啖て居
ゝゆゝ中ゝるゝものゝ義者もゆあるゆでゆきゝまんがを
中ゝゑゝの癖にその雪花菜と買ゝゝゝと。ゝゑゝゑ
人ゆ初るでゆきゝまんゝや我れでかの母親が途中
で人ゑゑせね中ゝゝゝゝゝゆゝのもゆゝゝゝ我乃
接るゆでゆその母親の心ゑハゆその子が雪花菜と買
てをゝゝゝと自然近所の友達がゑゝゝゝゝゝ。ゆきゝ間
が多之で常ゆ豆腐の雪花菜と啖て育つゝゝゝ
居ゝゑゆ。ゝゝゝゝと山後アノゑが友達の中へ出て

肩がすぐるの昭下に入れる乃馬鹿よせ〜まるのと
いよ中るる。つろ〜る俳人さむがあつていよくるる〜足
〜まれとる病。そのよハかハ香花菜とのゝ花雖と我
天窓のゝく戴せ近所乃友達ゞ多勢拵びちゝ手人
白でいひまれハコウくみんな爰一まて杉きゞ爰こ杉
て居るは花雖の中ゝハ何とのて居るゝ。いのてゝんなさ
れ〜いひまれじや。さ〜ゝるし手布ゝ居る友だちゞ
どやくゝと書て来て一人のよゞいひまれハぶれらひ
中てゝんせよ。そきハ大りゝ大豆でゆうよ〜いひす
〜きバかの花雖と杉ゝさるゝかぶうとふつくゝ、

大豆じやうふくゝいひまれゝ一人のよゞちきゞつて
ゝんせよ。そきハ小豆じやくゝいひまれとゝヤ小豆で。
ちゝくゝいひまれ又一人のよゞ味噌じやくゝいひと
すゝくゝヤ味噌でゆうくゝいひすゝてどゝゝて。
香花菜とゝるとゝんなゝいひ中ヤせんゝさう
ちゝくゝゝ。その花雖と杉ゝさゝいひまれハ五ゝみんな
ゆうゝでかゝ色ハ香花菜じやゝ。いひまれゝさゝ
ゝ多勢のよゞ杉ゝ杉くてフウ山ゝそうやゝ香花菜
ゝんゝその花雖とおゝゝてゝその中とゝんせうゝれ
ゝいひまれハヤ中とゝんせるゝゝれゝゝぜ

中とゝ人せうとゝめぐゝつくパそうや肉のかくさんぐ人
れゝ人せぬ中ゝゝて拵てのぐゝれゝぱゝとゝきゝゝゝどやぶ
ひゝゝゝぐちんとゝ仲の後の中とゝいゝゝりのゝ織工人様の
角ぐゝそのあゝとゝきゝゝゝるゝのゝぐやナ釈ぐ人ゝゝゝゝゝと
いゝゝゝゝゝゝ正直ゝゝゝ人せハせねぐゝそのゝゝゝゝゝの意味食ハ
ゝ仲乃腹の中ゝゝぐゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝ

り貴ちう出して居て居ると西門ヒく迫所乃友達ガ此
人ハ連で来て方右さん様バ上とのふとそのまゝ内
うゝイヤ今日ハ出らるねうくといつげる。そこで母親ハ言
をとゝんで其牛子ハ聞つて居をバよのまゝ。ありふうち
まゝ外ろう友達ガ呼ちゝイヤ今日ハあゝれねうゝ
こんるマア長く来うさまこうふけるそこでやさて親ハ
そマア友達ヒ呼様バこのまゝとゆふうち。そやな友ちハ
どやゝくとうつて来く。そのまゝ乃新くうりと居あゝ
びゆやゝガやゝいひあるうちやゞて此方のまゝ云
ゆふ。おきハ今日ちんで世ちう人藤者をかぶつて居

て居るのでいつてくれるさんしとぴひまれけるそこで母親
ハモウ手ガたまゝぬゝ。例ろコレ方ゝいつて白昭でも
せてもそのまゝ。そのまゝ。そこの伏ろ多ゝ母乃新
とヂロくくるゝやつぱり友達へ出くいつてみるさんと
つふと友達ハ出と抜くてそれハ言ふゝでぱうふふ
そゝとるとイヤ言ふうゝでハるゝとつふげる。そんう風
ども引てのゝいつゝイヤ風ともひろゝとと母親側
かゝうつてヲあきもチウト風言でぱひまゞゝさて
すゝそのまゝ。ヲ海さんのアリ母ゝる嘩をいつてゝ
おきハのゝも風引るのでハ。ちんのゝいつふゞる。そこで

そく親ハナニヲリく手とゝとんで江戸山王ハと思ふうちに又
そのよがついひまハぱくんなる法いつておいく。おきゞ世藩
家の縁とチイトゆて人せゝとゝいつ迄毎朝もモウこゝ人の
て江戸ア馬鹿ものめそんな所廣るものゝやうに
し白昼でゝせてもやつぱりゝ名らねく。廣園の縁と
チイしゆて。ぱくりやッといひ。まさめてハこりやッしらゝ
ゆくなるのよ仕ゲ。その深で居ると人てアリヤ山見ハ深で
居てゝやゝるぜ世界ハ深で居ると同ゝバサア丈と
又いつて人ゝるゝれといつよ迄皆のよ仕ゲ。そまハ何でう
おまゝらハ知ゝねゝいつなれバ。その時ハ。こちのよがいひ

まハ。そんなゝちまゝがつて。今日ハ知れぬ命乃
沈淪ゝやゝいひまゝゝげるゝ実ゝよ仕ゝつゝりのハれの
おのゝものゝやうに後ゝも十年にゝるよハ十年ゝ悔れる
ゝゝいひまゝすゞ。そまでも中ゝ深ゝゝものゝゝ仕ゝて
人ゝゝ。それハ清浄な寂滅ものゝや。その清浄な何
ゝもゝいゝゝゝゝゝゝ佛でいつゝゝ。ゝ真ゝ法でいつゝバ
正真の寂滅といつ所。仏法でいつゝバ
仏の極安楽浄土といつものゝしゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

ゞそれがちいく歳と申して段ゞ大きくあるんちくく
ひろくて撫らきゆゑ撫られ。いつのるゝ中に撫り廻さん
てウイ山我くくふくとのと見くはをそれくくうくく
出しくさのゝやイヤ自ゝやの他ゝやの撫ゝやの汚ト
やの爰くさの指くさの先ゝやの北ゝや乃悟くさの遠さ
の鬼ゝやの佛ゝやの地獄ゝやの極楽ゝやのゝ
るゝ。わくくきねるゆゑくくくくさくくらくで中濁むけ体む
るゝくくくくのハあい。そまで一体わ尚もそ紀て。う体
なくきるりのゝどゝのそ熟く癌せつけてやくくふゝ
て体きくく奇ホ

面倒迷ゝや地獄ゝ地獄ゝや苦ゝやどゝゝ苦くくやくくふ苦ゝやく
世の中ホ病くく病楽ハちくくさのの城ゝれたくまあ紀てくくくく
そんちくくく見くくの五ゝ元の赤ゝれ三濃り居るくくく元
で苦ハちくゝ紀て形くく癌て言ハ体ハて。どゝそくく
しハくくで中ゝ存くゝ中ハ。ちくくくかくくくくくくふゝ結ゝ体ゝかハ
つくくくくくくくとくくゝゝ中くくくくくくくく

顔も四角しるそろ〳〵がそれでも現在その顔がそろも
ちのいハかろそまへしをそろ呂ひハかなるまへ一男ト
やそろも女ドやそろも若いそろも老人そろも治てござろそろも
死でござろそろも。扨りひハろそろまへ又女中ろまバれ
親〳〵宮仕ござろへそろも悪へそろも背ガ高へそろも低へそろも
四尾ガ大そろへそろも小そろへそろも肥そろも角そろもひハ
ちそろ〳〵れ何とあるりのドやろそんなり〳〵仕
死でござり能麻へてござるとへよりのドやそれ
ドやろ〳〵今ハ拙のかしへそろもござるまへ
又かしろへそろへ四むもござるまへしを分ハ

おそろまへ四むもあろまへしをそろ
四んろもろまへ呂ろんしをそろ楽しろそろへそろ
も若しろそろ四のそろも角そろ呂ひろそろ仕
もちへガ遅ひしへそろもろへガ色も非も佛も成生
も業も因果もそろうそろ何もろまへ
ろガろふかてたガちろしけをハ知ひかなまへ
バ河と流しそろもろバ宮てござるガそろガ儀
の四徳也若寂滅為楽とへよそのドやなそろへ
りのドやろへそろガドござるガ互に比ろまへ味ひとそろく
り〳〵今ハしてせ淮の結るまへ能麻へそろろ能麻へ

たいりのでゆきりまん。ちょうどよう見えるいとの
ゝや平常何ゝもちの時ゝハ絵でも。どゝの中ゝ絵ゑ
ざやうる形付して。ちょうまんぐ絵ゝ〻仏様捕
へチョツゝとでゆ。さうるが実物モウ直ゝ活かくる又女中方
でも平生ぺゝどゝ書屏の中ゝ〻ゝ。やゝ〻きう形付
して絵像へてゆきる中ゝうゝ何ぞ集ゝくゝ出して
ゝきるゝ又作ぞ。つゝまゝどゝいるゝとゝいひゝもすゝゝウイ
もちろう紀ゝてサアあまぶ海ねの色ゝ〻ゝねのやゝく
ゝゝゝゝぶ中ゝうる不仕合せるゝものハぶゝ〻ねの業るゝゝ
ゝやの同景るゝゝどゝやのゝゝいゝて東国中とゝゝくゝゝ

ゝゝゝる賊ゝ記の毒るゝものゝどゝやゝいゝゝぶゝてゝゝ紙
ゝ家不けゝりのゝや天授ひの出来でハゝ人ゝ密義や狐
お巻仏のゝ。ずてゝ紙何と仕ても直るゝゝの出来
中ゝゝぶゝうゝい紙マア考ゝてゆゝうゝゝませ。それゝ
ゝゝて反ゝゝゝりぶゝゝゝゝゝが武士ゝ武国の武士が
一体和尚へお見しゝていゝゝれまんハ拙者もゝゝて学
問ゝゝゝ凡天地の間の事。何一ッ知りもゝなゝへ中ゝに
ゝゝひゝんが只一ッ今為のゝまゝゝねゝハ仏法ゝペゝる
る地獄極楽の説でゆぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
中ゝゝ信ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ヨフくまんぐあをハ全体とちゝと云まつゝ
りのでゆゑるゝ又ものでゆゑるゝ
るゝつゝれまゝくれハ一体和尚かの去の孔をぞつと
称り付ナニ地獄ゞつのるゝ極楽ゞあるゝ。その中ゝるゝを
乃ゝまりゝ。おのれハ今体仏若ゞいゝれまゝ中へ。かの
士ハやつゝくゝるゝて拙者ハ来ゝゝ武士でゆゑるゝ拙
獄極楽のゝゝを取ハゝゝ中のゞはゝゝくゝゞゝ
いくゝまゝ。なれバ和尚へラ笑ひゝるゝ〳〵ナニ武士ゞや
そゝるゝも。やつくゝ武士の内ゝ仏武士ゞゝ中ゞ武
士ゝ仏依ゝ拙ゝ本所ゝゝ輔命ゝ今体仏乃武士

ゝゝハ武士乃拙ハ初て居ゝそゝものゞやゞ中方ハ
ゝゝゞ武士乃ゝ初ゝゝゝ武士ゝいくゝりのハゝその
天窓のゝつ面んゝゝ。その足の孔ゝ中でゝいくゝ命
ゝでゝゝ人のゝものゝゝ方のりのゞゝ来ゝくゝゝ。さ
ゝれバゝ治世の時ハ綺ゝゝの役義に是敬ゝと居ゝ
ゝ人の用事乃ゝゞる中ゝ大切ゝ勤め。スハ山大ゝゝ
いくゝ時ハゝ人のゝるゝあゝゝて命と的ゝ敬の中ゝゝ拙
ゝ敬の肩と教ゝゝゞ付て取様ゝゝゝりのゞゝさゝ
いくゝ大切ゝゝ角と扨て居ゝゝゝ。ゝゝゝ来
て地獄ゞ有ゝの極楽ゝゝるのゝ。ゝゝや仏の後云拙

有バ又ぐハするゝ筋ぞ。おのれが身ゝ世ゝる
て、純武士ともいへバ腰拔武士ともいへバ殺法ともいへ
ばいやらしゝ哈い津しわゞとい。いさゝか爲ゝと拔て
天窓とピレヤリ〳〵毆きゝれバかの士も。くるつとせれいぬ
神のきゝる程に場をめぐ義ゝ。そして垂へ捨ゝ
ゝ。ゝ。ゝ悪に移云たゝひ仏作と後て振るゝも手作
ゝハ捨ゝれサア覺悟せゝ。ゝ側ゝなるカと取てスラ〳〵
拔ゝゝれバ一体わ爲肝と津。そうやらて拔ゝヤレ
近ゝ廣座へ飛乃て逃ゝ。ゝ。ゝ士ハおのれ
逃るゝも逃さゝと水のわゝ拔ゝと。ゝらげ身ゝ

せのく逃ゝけゝれバ一体わ爲後とゝ。ゝ。その姿と拔
さゝてアラあそゝろしや。そゝきゝ地獄ゝやゝ。ゝれゝ
ゝげゝ。そゝでかの士も見ゝく落ゝ拔ゝるカとかゝゝ
投捨。わ爲見ゝ地獄でゝ。さゝれバ今の世ゝ。ゝれ
と思ゝ。ゝせゝさゝんゝの方後でゝ。ゝゝ
今ゝで生ゝ地獄ゝ和尚の後の世ゝと。ゝ。ゝ急
ちゝ来ゝ。ゝさゝきバ有ゝも定ゝ又生ゝ定
ゝ。それでゝゝ実ゝ。ゝゝ。ゝ
今。今ゝゝ。ゝ。ゝ拔ゝ。ゝ。ゝ
流ゝ。ゝ。ゝ。

及ひつゝ遠く合点。まのあたりて仏方うも法をいうてくれさ
く様しや極楽どやゝ〳〵そこが極楽どやゝ〳〵ぐれさ
ゝもんなるもで乃ぐうもの乃ぐ何しぃ乃うこゝちのしどや
乃ぐうもせぬうたくしひ世界小世界小世界ハ。あるとても仏ゝ
中世界ハ。ゑいもの也へ今日乃仏ゝ乃仏法でいくべ未来永
くの仏ゝ未来永ゝくの仏ゝやうぞう今日共今の仏ゝ
生ハ神乃の教や儒道の教ハいつゝ及ぶ仏法に
餓鬼どやの修羅どやの畜生どやのイヤ鬼ど
やの仏どやの乃ゝ去どやの未来どやのいつゝ教も
早竟ハ今日共今の仏ゝうて用事のいるもで何

ゝも来年ゝ〳〵結ぶ仏ゝ乃ぐ幸ゝ乃ぐ
と学ぶのどやの来月ゝ〳〵仏ゝ乃ぐ楽むのしやけ再来
月ゝ〳〵御法変と守るのどやのゝ〳〵やうゝ緩氏
物ゝ本でゝ。そゝゝゝもうゝ乃ぐ行ゝ
ゝ。ゝゝハ仕ぬゝ〳〵人ハ共〳〵今日共今の平生
仏ゝ生死場成ハあづゝゝゝ幸と徒乃ゝゝ共仏ゝと
仏ゝゝゝゝ天幸大切ゝもうゝ仏ゝ
乃ぐうもせぬ。それで孔ゝよゝ浄土ゝの幸ゝ乃
鬼神ハ幸ゝ道と問きまゝゝのゝ人ゝ幸ゝて
と乃ぐうもうしうもうきゝ死の乃と乃ぐうもきゝのゝ人ゝハ生

きて道と知きこれをもつてこそ
まん。もつて私もかもつたまんぐ
ふハらつまんぐ
兎角茶小中さ泉ばけりの元そろひの巡夏
仲間どもゝぞ皆換もろしこ
まん。まづ此席ハ是限

心學道之話五編終

弘化四年丁未春刻成　廣陵　花蹊堂

心學道乃話六編七編　近刻

書肆

京都錦小路烏丸東ヱ　伏見屋祐七郎
江戸日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
大阪心齋橋南壹丁目　敦賀屋九兵衛
同松屋町久寶寺町北ヱ　大和屋嘉兵衛
同農人橋通谷町西ヱ　本屋吉兵衛